

取るぞ！日本の看護師資格



辞令を受けるアルカさん＝美濃加茂市の木沢記念病院で

木沢記念病院

美濃加茂市の木沢記念病院に二十七日、日本とフィリピンの経済連携協定（EPA）に基づく看護師候補者のフィリピン人男性が着任した。現場で経験を積みながら日本の看護師資格の取得を目指す。男性は、母国で約四年間

の看護師経験があるアルカさん（30）。新型コロナウイルスの影響で約一年遅れの着任となったが、今年五月に来日してからは、東京の専門施設で約四カ月間の日本語研修を受けてきた。

フィリピン出身・アルカさん EPAで5月来日

木沢記念病院では手術室の看護補助を任せられる。原則三年の滞在期間内に日本の看護師資格を取得できれば、引き続き同病院に就労する見通しだ。

アルカさんは日本の医療技術や四季に関心を持ち、候補者に応募したという。同病院で運営法人の山田実紘理事長から辞令を受け、「一生懸命に頑張っていきたい」と話した。山田理事長は「コロナで大変だけれど頑張つて」と声を掛けた。

木沢記念病院は一昨年末までの十二年間に、EPAに基づく看護師候補者をフィリピンとインドネシアから十八人採用し、うち七人が試験に合格している。

今年一月の看護師の国家試験で見ると、日本人を含めた全体の合格率が90・4%だったのに対し、EPAに基づく候補者は20・8%で狭き門となっている。

（渡辺天地）